

2018

2-4月

はしかけニューズレター

2017年度 第6号 通巻139号

2018年(平成30年)2月1日発行



編集・発行：滋賀県立琵琶湖博物館 交流担当（はしかけ担当職員：戸田・大塚・下松・八尋・大槻・松村）
住所：〒525-0001 滋賀県草津市下物町1091 電話：077-568-4811 ファックス：077-568-4850
電子メール：hashi-adm@biwahaku.jp 琵琶湖博物館ホームページ：<http://www.biwahaku.jp>

(注意) 昨年末よりメール アドレス および HP アドレスが変更になりました。巻末5-(1)をご確認ください。

～ 目次 ～

1. はしかけ会員の登録更新について
2. 「はしかフェ」のご案内
3. はしかけグループの活動報告と活動予定
 - (1) うおの会 (2) 淡海スケッチの会 (3) 近江はたおり探検隊 (4) 大津の岩石調査隊 (5) 温故写新
 - (6) 暮らしをつづる会 (7) 古琵琶湖発掘調査隊 (8) 湖(こ)をつなぐ会 (9) ザ！ディスカバはしかけ
 - (10) 里山の会 (11) 植物観察の会 (12) たんさいぼうの会 (13) 田んぼの生き物調査グループ
 - (14) タンポポ調査はしかけ (15) 琵琶湖の小さな生き物を観察する会 (16) びわたん
 - (17) ほねほねくらぶ (18) 緑のくすり箱 (19) 森人 (20) ちっちゃなこどもの自然あそび(ちこあそ)
 - (21) 近江 巡礼の歴史勉強会 (22) 虫架け
4. 生活実験工房からのお知らせ
5. その他の事項

会員数・・・352人

グループ数 22 グループ

(2018年2月1日現在)

1. 2018年度 登録更新の手続きについて

遅ればせながら、明けましておめでとうございます。

旧暦ではまだ旧年（2月16日が元日）なので、この挨拶もまだ許容範囲かなとも思っております。

今年は、交流空間リニューアルや情報システム更新など、皆さんとの関わりの深い部分が色々変わり、ご不便ご迷惑をおかけする部分も多々あるかと思っております。御理解、ご容赦のほど、よろしくお願いいたします。

さて、年度末の事務手続きの時期が近付いてきましたので、御案内いたします。



(1) 2018年度 はしかけ制度会員登録の更新手続きについて

2018年度も、はしかけ活動を継続される方は更新手続きが必要となります。

はしかけ会員には後日案内をお送りいたしますので、更新受付票の提出（FAX、メール添付など）をお願いします。なお、18歳未満単独での登録には、保護者の同意が必要です。お送りする更新受付票の裏面に必要事項をご記入の上、ご提出ください。

また、ボランティア活動保険料510円の納入を3月20日までに、以下のいずれかの方法でお願いします。

- ① 2017年度 第3回はしかけ登録講座の日(3月18日)に実施する更新手続き受付での現金納入
- ② 郵便振替口座(00970-8-109479 琵琶湖博物館はしかけ制度)宛への振り込み(手数料別)

★はしかけ以外の活動団体ですでにボランティア保険に加入されている方は不要です。

★10歳未満の方については、上記の方法では対応できませんので、昨年と同様にご自身での対応をお願いしております。ご了承ください。わからない方は、個別にお問い合わせください。

(2) 2017年度 第3回 はしかけ登録講座

はしかけ登録講座の第3回を2018年3月18日(日)に開催します。

この講座では、各グループの代表より約2分間ほどそれぞれの活動紹介をしていただき、終了後に受講者からの質問への回答もお願いします。

場所：琵琶湖博物館セミナー室

受付：13:00～ 開講：13:30～

(戸田 孝)

新規会員募集中

2. 「はしかフェ」のご案内



第6回目は 3/18 (日)
「広がる交流活動の可能性を考える」
ぜひご参加ください!!

こんなはしかけ会員のみなさんにおすすめ

- もっと活動、発信の場が欲しいグループ
- はしかけ登録したけれど、具体的に何をしようか悩んでいる方
- 新しいグループを作りたい方。
- びわ博の交流活動に要望のある方
- びわ博でのいろいろなイベントを一緒にやってみたい方
- 他のはしかけさんや学芸員と交流したいと考えている方

12月20日(水)、「ちこあそ」の活動に合わせて第5回はしかフェをオープンしました。

当日は手作り善哉を食べながら、なごやかな雰囲気第2期リニューアルについて話し合いをしました。テーマは、大人と子供が五感を使って一緒に学ぶ「ディスカバリールーム」。リニューアルを経て、新しくどのように変わるのか説明しました。そのあと「ちこあそ」はしかけ会員の方から親子での学びについて活動内容を聞き、リニューアル後のディス

カバリールームの運営に向けた意見交換をしました。

その後は、新しくできる“におい展示”に使用する植物のにおいを嗅いでもらいました。普段意識していないにおいもあり、みなさん興味津々で新しい展示への手ごたえを感じました。その後はフリートークで、学芸員とはしかけ会員が楽しく交流しました。

今年度の最終回となる第6回はしかフェでは、3月末にリニューアルオープンするレストランとショップを説明します。もっと琵琶湖を感じる場所として生まれ変わるレストラン、ショップに博物館がどのように関わっていくか、はしかけ会員のみなさんと考えたいと思います。

「はしかフェ」は、様々な意見を出し合って、一緒に新しいことにチャレンジしていくための場です。はしかけ会員であれば誰でも自由に参加できます。カフェでくつろぐような雰囲気の中で、普段会わない違うグループのはしかけの皆さんとの間にも交流が生まれればうれしく思います。是非、お気軽にお越しください。



第5回 はしかフェの様子



新しく展示される植物のにおいの抽出液
(撮影：大喜のぞみさん)

対 象：2017年度 はしかけ登録者と登録講座の受講者

日 時：3月18日(日) 15:30～

場 所：生活実験工房

内 容：ディスカバリールームの概要説明、博物館での交流と活動についての悩み事 + 雑談

参加方法：当日参加OK (参加を予定されているかたは、事前にご連絡ください)

担 当：はしかフェ事務局 妹尾

連 絡 先：電子メール：hashi-adm@biwahaku.jp

電話：077-568-4811

(妹尾 裕介)

3. はしかけグループの活動報告と活動予定



(1) うおの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 42名】

グループ代表アドレス: hashi-uonokai@biwahaku.jp

グループ担当職員: 松田征也

【活動報告】

■11月19日(日) 10:00~14:00 第131回 定例調査報告 調査地: 法竜川 参加者: 19名

比良山に初冠雪がみられ、風が強く、寒い朝となりました。久しぶりの調査となる法竜川は、地下水を汲み上げた工場排水が流れる川で、熱帯魚ティラピアが生息し、以前は毎月定点調査をしていた、などの説明を開始前に副会長から聞きました。

本日は4班構成で、かつての定点調査を参考に調査地点を設定し分担して調査しました。まだ居るのかな、と話していたティラピアは全ての班で採集され、次いでヌマムツ、オイカワ、カマツカ、タモロコが多く見つかりました。その他にも、カワムツ、ヨシノボリ類、ニゴイ、スゴモロコ、ドジョウ、メダカ、カダヤシなどが見つかりました。

魚以外ではカワニナ類、シジミ類、アメリカザリガニ、ヌマエビ類、数種類のヤゴが多く班で報告され、イシガメ、テナガエビも見つかりました。

工場の近くでは水温が22℃もあり、熱帯魚用の水草であるウィローモスも繁茂していました。(報告: 村山晃彦)



タモロコ

■12月17日(日) 10:00~13:00 第132回 定例調査 調査地: 犬上川 参加者: 23名

2017年最後の定例調査は、今年一番の寒さ(!)の中、県北部の彦根犬上川で行われました。最高気温6℃、降雪確率60%という予報にもかかわらず、一人の欠席者もなく総勢23名という大人数で調査が開始されました。

(皆さん筋金入りです)

5班に分かれた調査隊は名神高速の付近から下流に向け順次調査しました。上流域では気温も水温も3℃に届かず、雪を踏みしめての調査。一方、河原の湧水池では水温13.8℃という地点もあったようです。凍える寒さでしたが、カワムツ、ヌマムツ、オイカワ、ニゴイ、ウグイ、カマツカ、アブラハヤ、ヨシノボリ類、ウキゴリ、シマドジョウ類、ギンブナ... などなど、予想以上に多くの魚種に会うことができました。そのほかの生き物としては、スジエビ、ヌマエビが多数、テナガエビ、サワガニ、珍しくキツネも目撃されました。

13時に集合し報告会を終えた後、あたりは吹雪になり、早めの解散に全員が安堵しました。雪が積もるような季節でも、生き物は我々を含め元気に活動していました。(報告 石井千津)



オイカワ



ニゴイ



カマツカ

【活動予定】

■2月18日(日) 勉強会 年間データのまとめを行います。

■3月25日(日) 総会 一年を振り返ります。



(2) 淡海スケッチの会

【活動報告日の活動会員数 (のべ) 12名】

グループ代表アドレス: hashi-sketch@biwahaku.jp

グループ担当職員: 篠原徹, 榎永一宏

【活動報告】

■11月26日(日)

場所: 曾根沼(彦根市)

参加者: 7名

紅葉の残る曾根沼を思い思いの場所でスケッチ。菱の実がたくさん汀に打ち寄せられていて、びっくり。前月の台風で、根こそぎ倒れている木が散見される。帰り道の途中では、希望者が、シャーレ水ヶ浜にて湖と水鳥を眺めながらケーキセットをいただいて解散。

この地の紅葉も素晴らしく、曇っていて夕日は拝見できませんでしたが、満足して家路につきました。

■12月10日(日)

場所: 叶 匠寿庵(草津)

参加者: 5名

ミーティングをしながら懇親会を兼ねて、近江の食材を味わいました。

【活動予定】

■2月は琵琶湖博物館内で植物などスケッチをします。(植物画をされる人は、画材をお持ちください。)

日時につきましては、1月のミーティングでお知らせします。

※ 初めて参加される方は080-5709-8634(金山)までご連絡ください



(3) 近江はたおり探検隊

【活動報告日の活動会員数 (のべ) 14名】

グループ代表アドレス: hashi-oumihataori@biwahaku.jp

グループ担当職員: 渡部圭一

【活動報告】

織姫の会

■11月29日(水)

参加者: 4名

次回作に使用する糸作り。綿で糸紡ぎ、麻には撚りかけをしました。

■12月23日(土)

参加者: 3名

午前中は工房の行事「しめ縄づくり」に参加。午後はいつも探検隊で使っている和室の大掃除をしました。地機のみわりはほこりがたまっていたのでふき取り、押し入れの中も片づけました。

■1月10日(水)

参加者: 2名

途中で放置されていた経糸を地機にかけて織り始めました。数か所おかしいところがあったので、そこも直しました。残りの巻きは少ないので、最後まで織ってしまう予定です。

その他

■12月1日(金) 10:00~ 湖南省下田の紺喜さんで藍染め 参加者: 2名

次回作に使用する経糸を染めるため、紺喜さんに行きました。前に染めた糸を持っていき、同じ色になるように調整しながら染めたつもりでしたが、きれいな紺色に染まってしまいました。調子にのってやりすぎた。

■12月9日(土) 13:00~ びわたんと共催「綿に触れてみよう」 参加者: 3名

びわたんの「綿に触れてみよう」に協力しました。今回は参加者を少なめにしたため、段取りよく、畑の見学、顕微鏡での観察、綿繰り、綿打ち弓による綿打ち、スピンドルでの糸紡ぎなど各工程を体験してもらうことができました。



12月1日 藍染め

体験者: 16名



12月9日 綿に触れてみよう

(辻川智代)

【活動予定】

織姫の会

■1月27日(土)

■2月17日(土)

2月28日(水)

■3月17日(土)

3月28日(水)



(4) 大津の岩石調査隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 15 名】

グループ代表アドレス: hashi-ganseki@biwahaku.jp

グループ担当職員: 里口保文

【活動報告】

■11月12日(日) 場所: 高島市 石田川と百瀬川 案内者: 森野氏、 参加者: 8名

(1) 調査におけるポイント: 湖北の著名な「天井川である百瀬川」と石田川の河川争奪の歴史、現状の調査
(2) 概要: この地域を調査拠点にしている森野さんの案内で調査地の観察を行った。百瀬川の天井川の観察、百瀬川上流地域で断層や岩石の観察を行った。山や深い谷が曲がりくねった状況は3月に行った根尾谷断層の光景に似ていた。その後、石田川と百瀬川の河川争奪があったと考えられる地点周辺にて、河川跡の説明を聞きながら、旧河川によると考えられる扇状地の地層を観察した。今も動いている断層であることを感じた。

■12月16日(土) 場所: 大津市 相模川源流域、 参加者: 7名

(1) 調査におけるポイント: 川沿いで新たに露出した茶白くなっているチャート?の観察、川沿いに見られる断層付近にある礫岩様の岩石の観察。なお、当初は吾妻川の破碎帯の調査も予定していたが、降雨の懸念もあり中止した。

(2) 概要: 新たに露出した場所では、大きなチャートブロックの中に茶白色系の貫入岩のようにも見える岩石を観察し、様々な意見が交換された。白色部分は触ると火山灰のようなザラツキあり。礫岩様の岩石露頭では、これまでに解釈が一致していない岩(UIFR)の転石と露頭を調査した。転石、露頭の岩とも観察した。断層角礫岩とも見えるし、それにしては少し礫が丸い。この正体調査継続中。



【活動予定】

- 1月27日(土): 博物館での勉強会 10:00-16:00頃
- 2月24日(土): 博物館での勉強会 10:00-16:00頃
- 3月上旬(日程調整中): 吾妻川の破碎帯の幅の測定と古いガウジの調査



(5) 温故写新

【活動報告日の活動会員数(のべ) 10 名】

グループ代表アドレス: hashi-onkosyasin@biwahaku.jp

グループ担当職員: 金尾滋史

【活動報告】

■12月16日(土) 9:30~12:00 写真の撮影講座 Part4 参加者: 10名

写真撮影の基礎からはじまり、撮影のコツ、画像の仕上げ方について勉強しました。さらに昨今話題になっている、著作権、肖像権など写真のもつ権利や、撮影時や公表時に気を付けないといけないことなどについて、これまでの事例や現在カメラ雑誌などで取り上げられている内容を基に情報共有をしました。

【活動予定】

- 2月3日(土) 9:30~12:00 実習室2 大橋コレクション整理作業
- 3月3日(土) 9:30~12:00 実習室2 総会・2018年度の活動計画

※温故写新では、皆様からのご依頼があれば、博物館主催行事やはしかけグループ活動での記録写真などの撮影協力を行ないます。必要な方は温故写新担当学芸員(金尾)へご連絡ください。ただし、メンバーの日程の都合上、ご協力できないこともありますので、ご了承ください。



(6) 暮らしをつづる会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 名】

グループ代表アドレス: hashi-kurashi@biwahaku.jp

グループ担当職員: 渡部圭一

【活動報告】 活動はありませんでした。

【活動予定】 未定です。



(7) 古琵琶湖発掘調査隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 33 名】

グループ代表アドレス: hashi-hakkutsu@biwahaku.jp

グループ担当職員: 山川千代美

【活動報告】

■11月26日(日) 13:30~16:00 微小な化石の水洗抽出への取り組み(第1回) 場所: 実習室1 参加者: 19名

内容: 多賀の発掘現場で採集した土から微小な化石を取り出す

これまで「多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト」の発掘調査に参加し、現場で化石や地質の調査を行ってきましたが、2017年9月に行われた第5次発掘調査では、発掘現場から土を採集し、微小な化石を取り出す試みを行うことにしました。

今回、作業前には、土を採集してきた経緯や、発掘現場の地層のどのあたりから土を採集したかなど、重要な情報を参加者全員で共有し、確認をしました。

8月の水洗抽出実習の際に気づいた、『水洗作業を行う際に、壊れやすい微小な化石をできるだけ壊さずに取り出すにはどうすればよいか』という課題を解決するため、土が水に溶けやすくなるよう土を小割りしながら、まずは目視で微小な化石を探す作業を行いました。

土は大割りの状態で固く乾燥していたため、水に浸け、作業前に水から取り出しました。浸け具合がよかったのか、土全体が程よく水分を含み、今回作業する予定だったコンテナ1杯分ほどの土は、みるみるうちに1~2センチ角ほどの大きさに小割りされ、その過程でいくつかの微小な化石も見つけることができ、幸先の良いスタートになりました。

■12月17日(日) 13:30~16:00 勉強会・微小な化石の水洗抽出への取り組み(第2回) 場所: 実習室1 参加者: 14名

内容: 多賀の発掘現場で採集した土から微小な化石を見つけよう

新しく古琵琶湖発掘調査隊に参加したメンバーも増えてきたため、前半は学芸員の方による、古琵琶湖層群や植物化石についての勉強会を行いました。

その後、前回の続きで、さらに土を小さく小割りする作業を行いました。前回の作業で既に小割りされている土は、水切りが不十分だったこともあり、作業の途中で泥に変わってしまい、作業効率が一気に落ちてしまいました。

どうすれば、土の中からうまく微小な化石を取り出せるのか、作業の過程で実際に行いながら試行錯誤を繰り返しています。微小な化石の中にも重要な化石があるはずなのですが、屋外活動での限られた時間で見つけ出すのはとても大変です。古琵琶湖発掘調査隊のメンバーそれぞれの個性をいかしつつ、室内だからこそできる微小な化石の探し方を模索し、新しい発見への可能性を広げていきたいです。

【活動予定】

■1月28日(日) 新琵琶湖学セミナーに参加



(8) 湖(こ)をつなぐ会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 4 名】

グループ代表アドレス: hashi-ko-tunagu@biwahaku.jp

グループ担当職員: 林竜馬

【活動報告】

■12月10日は草津エコクラブ活動発表会があったため、めずらしく小学生たちも紙芝居を見に来てくれました。小学生たちは、学校で「生きている琵琶湖」を歌ったことがあるとのことで、私たちの会としては嬉しいことでした。今回は、ディスカバリールームがリニューアルのために閉まっていたので、もう1本「うんちくんのぼうけん」という紙芝居を上演しました。トイレでした「うんちくん」が下水処理場でキレイな水になって、琵琶湖に戻っていくというお話で、小学生や保護者

に向けても良い啓発になったと思います。2回目も館内にいる小さい子ども達が全員集まってくれたかと思うくらいたくさんの方の参加者で楽しく紙芝居を出来ました。

【活動予定】

■2月11日(日) 13:00~ 交流室2集合 紙芝居上演



(9) ザ！ディスカバはしかけ

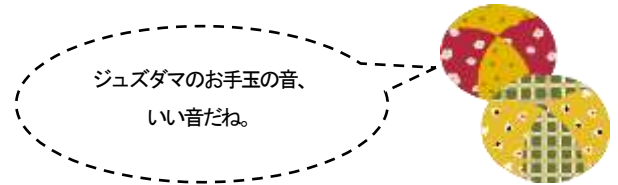
【活動報告日の活動会員数(のべ) 7名】

グループ代表アドレス: hashi-discov@biwahaku.jp

グループ担当職員: 澤邊久美子, 森智美, 片淵綾香

今年は工房の畑で、ジュズダマとハトムギを育てました。種をまいて苗から育てたジュズダマとハトムギは、すくすく育ってお手玉になりました。とてもいい音がします。子どもたちは、完成したお手玉でたくさん遊んでくれました。次はあづま袋を作ります！

ディスカバリールームは2018年7月にリニューアルオープンします。閉室中も楽しいプログラムを計画中です！



【活動報告】

活動内容	実施日	タイトル	内容
準備	12月11日(月)	イベント準備、練習	お手玉づくりの準備をしました。参加者: 2名
はしかけイベント	1月8日(月祝)	お手玉をつくろう	工房で育てたジュズダマとハトムギを使って、お手玉を作りました。参加者4組、はしかけ参加者: 5名

～メンバーからのメッセージ～Vol. 40～

毎年、初めての針仕事に夢中になる子どもが多いです。今年は、小学生のお兄ちゃんやお姉ちゃんに加えて、お父さんも夢中になって作っていました。2つのお手玉を同じ重さにするためにはかりで測ることも、楽しかったようです。

(澤邊)

【活動予定】

活動内容	実施日	タイトル	内容
準備	3月12日(月)	あづま袋イベント準備、練習	あづま袋の準備をします。
はしかけイベント	3月21日(水祝)	あづま袋をつくろう	1枚の布から、袋を作ります。針と糸で縫ってみよう。

※ディスカバリールームで「こんな楽しいことしたい！」などアイデア・提案があれば、お気軽に澤邊またはディスカバスタッフまで声をかけてください。いつでもお待ちしております！

新しいメンバーも大募集中です。一緒に楽しい発見(ディスカバ)してみましよう！



(10) 里山の会

【活動報告日の活動会員数 32名】

グループ代表アドレス: hashi-satoyama@biwahaku.jp

グループ担当職員: 山本綾美

(登録会員数: 39名)

【活動報告】

■11月25日(土) ソバ乾燥 草木染 参加者: 10名

天候にも恵まれ、予定通り、会員が育ててきたソバの乾燥と草木染めを行いました。先ず、刈り取ったソバは実験工房の軒下にはさがけしました。その間に湯を沸かし、草木染めの準備をしました。材料は、ケヤキのおが粉とタブノキの樹皮です。タブノキは琵琶湖博物館で現在工事中の樹冠トレイル設置のため伐採した木を用いました。





ケヤキおが粉染め



木綿の布は豆乳で下処理しておきました。そのまま石を包んだり、布を折り紙のように畳んでからビー玉やドングリなどを包んだりして輪ゴムで絞りにしました。染色液に浸けたあとはミョウバン液で媒染してから、水洗いをして完成です。布を広げる時のワクワク感を楽しんだ後、ロープに干していきました。また、昼食用に味噌汁やかぶの酢の物を作り、持参したお弁当を食べながらの一時も楽しかったです。（古川）



タデノキ樹皮染

■12月10日（日）

ソバ脱穀 年末反省会

参加者：14名

ソバの脱穀を行いましたので、報告します。

乾燥ソバ束を提供できたのは、3軒分で、1名の方は、生育が遅れてまだ実が熟していないということで、残念ながら持ってこられませんでした。相変わらず前田さんの分が一番多く、その成果に頼ることになりました。

まず、庭に大量の落ち葉が散乱していて庭掃除から始めてブルーシートの上に足踏み脱穀機を設置しましたが、博物館の山本さんの指摘で脱穀機にカバーフレームがあるのを初めて知りました。子ども達も一通り脱穀体験をして楽しんだことと思います。

次の唐箕工程では風量の調整に少し苦労したようです。最後は大人の方で仕上げして、不純物はそこそこ除去することができました。お昼は天気も良く風もなかったので、外にテーブルを持ち出して食べましたが、メンバー差し入れのサトイモ、ニンジン、ジャガイモ、ダイコン、青ネギでけんちん汁、野菜煮物を作って頂き、暖かい食事ができました。

さて、収量ですが、特に各人の比較をすることなく、全体をまとめて処理し、一応私の方で洗浄すべく預かりました。持ち帰って計量した結果、A級品；850g、B級品；320g、C級品；140g、計1310gとなりました。昨年より大分実の入りが悪く、台風や10月の日照不足の影響が大きかったようです。次は2月24日のソバ打ち会となります。（宮本）



■1月14日（日）

里山体験教室下見

参加者：8名

今年最初の積雪となりました。翌週に控えた里山体験教室の現地下見を行いました。はしかけメンバーはスタッフとして参加します。雪なんてなんのその、来週本番もどうしても雪が多くて車が入れなければ中止するが、それが大丈夫なら雪でも開催するという事で了解を得ました。

里山体験教室では、山の整備と整備で集めた枯れ枝を使って、たき火を行う予定です。その他のお楽しみもあります。参加者親子さんにいちから火をおこすまでを体験してもらうのは、とても貴重で楽しい経験になると思います。（山本）



【活動予定】

- 1月21日（日） 里山体験教室（冬）本番
- 2月24日（日） ソバ収穫祭 キノコ菌打ち
- 3月4日（日） 総会



(11) 植物観察の会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 2名】

グループ代表アドレス: hashi-shoku-kan@biwahaku.jp

グループ担当職員: 芦谷美奈子

山々が白く、寒さ厳しい季節となりました。この時期にしか見られない冬芽やビワの花などを観たいと思っていましたが、今回は、なかなかうまくいきませんでした。

【活動報告】

■12月3日(日)

参加者: 2名

びわ博の周りを歩きながら、タブノキやカンツバキの冬芽を観ました。カンツバキは、ふつうサザンカと呼ばれますが本当は原種の花弁が一重のものを「サザンカ」と呼ぶことや、ツバキとカンツバキの花のつくりの違い、特に雄しべの形や花弁の付き方を調べました。

しかし、カンツバキだけであってもツバキの花がなく、いつものように比べることができなかったことと、何かと詳しいメンバーが何人もいなかった(いつもだれかが知っていたり見つけたりして進む)こともあって、この日はなかなかうまくいきませんでした。みんなで集まって調べる、話をする事の大切さを実感しました・・・。



タブノキ冬芽

(春になるともっと大きく赤くなります)

■1月14日(日)

天候の関係で、急遽、お休み

【活動予定】

■2月 は お休み

■3月4日(日) 13:30~16:00

冬芽、ツバキとカンツバキの花のつくり

場所: 琵琶湖博物館 実習室2

今年度のまとめと反省、来年度の活動計画話し合い

月に1回、第1日曜日の午後を予定しています。遠出の場合は、これに限らず、変則的になります。

外部で行う観察会は、年に数回、みなさんにも呼びかけを行う予定です。このニューズレターを見て、直接現地へお越しください。基本的には、危険が無く雨でも歩ける所で、大雨や警報が出ない限り「行く」方向でいます。

この活動に興味のある方は、メール (hashi-shoku-kan@biwahaku.jp) にてご連絡ください (ˆoˆ)/
当日、直接、実習室へ来ていただいても結構です。



(12) たんさいぼうの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 22名】

グループ代表アドレス: hashi-keisou@biwahaku.jp

グループ担当職員 影の会長: 大塚泰介

【活動報告】

琵琶湖博物館で12月17日に行われた「第8回 琵琶湖地域の水田生物研究会」で、富小由紀会員が、以下のポスター発表を行いました。

富小由紀・大塚泰介・中村優介: 滋賀県の水田の珪藻目録。

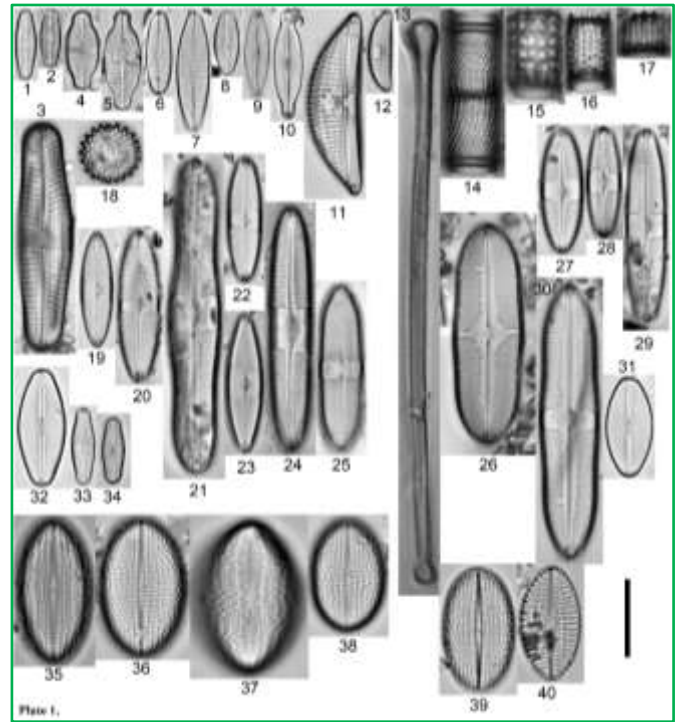
滋賀県の水田から、約350種の珪藻を見出して写真撮影をし、うち220種ほどまでを同定しました。右に示したのは、ポスターに並べた写真のほんの一部です。たんさいぼうの会第55回総会を、1月14日(日)に、草津市まちづくりセンターで行いました。11人が参加し、それぞれの研究などの進捗状況を報告するとともに、今後の活動計画などを話し合いました。私たち「たんさいぼうの会」が産声を上げた頃、初代会長補佐の中井大介会員が、琵琶湖博物館前の琵琶湖で新種の珪藻を見つけました。その新種報告の論文が、約15年の時を経てようやく受理されました。中井会員も影の会長も、この珪藻が新種であることを早い時点で確信していたのですが、どの試料にもわずかししか入っておらず、十分な分類学的検討ができなかったのです。しかし、琵琶湖南湖の湖底で近年急増している外来ラン藻 *Lyngbya wollei* の上にたく

さん付着しているのが見つかったので、これを影の会長らが研究して新種報告にこぎつけたのです。詳細は次のニューズレターで報告します。

上記以外にも、現在、多くの会員が、様々な場所で採集された珪藻の研究を進めています。研究は徐々に加速しています。愛知の湧水湿地群の珪藻については、写真撮影がかなり進みました。瀬田公園（大津市）および藤ヶ鳴湿原（岡山市）の珪藻については、同定が半分以上まで進みました。藤前干潟（名古屋市）の珪藻については、200種あまりを概ね同定し終わりました。多賀町のアケボノゾウ発掘現場の珪藻化石について、走査電子顕微鏡写真を用いて再検討したところ、新たに多くの種が見つかっています。もっとも最近になって研究を始めた久美浜の化石珪藻については、もう論文のドラフトまで進んでいます。今後も、主役（主著者）を交代しながら、1つずつ確実に論文にしていこうと思います。

【活動予定】

現在の勢いをそのままに、引き続き個々の担当の顕微鏡写真撮影・整理・同定、そして論文の執筆を進めていきます。



(13) 田んぼの生きもの調査グループ 【活動報告日の活動会員数(のべ) 名】

グループ代表アドレス: hashi-tambo@biwahaku.jp

グループ担当職員: 鈴木隆仁

【活動報告】

寒い日が続いています。田んぼの稲もすっかり枯れてしまいました。今頃エビたちは土の中で卵の夢を見ているのでしょうか？ 会員も一部を除いて冬眠中です。

(山川代表の報告)

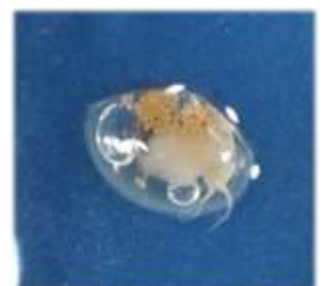
現在、本年度の調査票のなかで埋められていないところ（過去の調査結果との照合・比較、用排水の状況、冬に水があるか否かなど）を埋める作業を進めています。2001年～2016年の調査票及び整理が済んだ2017年の調査票も電子化し、Web上で見ていただけるようにいたしました。

11月から1月にかけて、グループで調査した地点を順次再訪し、土壌の湿り具合、秋耕の有無、用排水の状況を確認しました。一定期間晴天が続いた後でないに調査の意味がないため、事前に調査の予定を立てることはできず、単独での調査となりました。米原市や長浜市方面は遠いのと時雨が頻りに降っているため再訪はしていません。

★山川代表、ご苦労様です

【活動予定】

昨シーズンの調査結果の報告会は2～3月に開催する予定です。日時はまだ決まっていません。会員の方は今後送られる日程アンケートのメールにお返事を下さるようお願いいたします。



卵を抱えたヒメカイエビ

(石井千津)



(14) タンポポ調査はしかけ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0 名】

グループ代表アドレス: hashi-h-tanpopo@biwahaku.jp

グループ担当職員: 芦谷美奈子

今年のタンポポのシーズンは終了しました。グループとしての活動は、あまり展開できませんでした。来年のシーズンに向けて準備をしようと考えています。調査だけに特化するのではなく、タンポポそのものを楽しむグループでもありたいので、名称の変更を検討しています。

<タンポポ調査はしかけ、継続活動中！ 次の調査までは、突っ込み型の取組みをしていきます！>

「タンポポ調査はしかけ」は、「タンポポ調査・西日本 2015」というタンポポの参加型広域調査に協力しながらタンポポについて学ぶことを目的に作ったグループです。この「タンポポ調査・西日本」は、5年ごとに開催される広域の参加型調査で、2020年にも実施される予定です。

2015年の調査は終了しましたが、2020年の調査をより充実した内容の濃いものにするために、「タンポポ調査はしかけ」の活動は継続しています。2020年の調査までに、広域調査の調査方法では調べることができない、タンポポの種類ごとの生態や、分布と環境との細かな関係性など、つっこみ型の調査や勉強をしていこうと考えています。

<2015年の調査の結果を掲載したチラシ、報告書をご希望の方はお知らせください！>

「タンポポ調査・西日本 2015」の報告書および結果チラシをご希望の方は、上記アドレスあるいは芦谷まで直接お尋ねください。チラシを配布したいなどのご希望も、遠慮なくお知らせください。

<引き続きメンバー募集中！既存メンバーについてはMLを見直します！>

今回の調査（2019年予備調査、2020年本調査）を視野に、活動をしております。このはしかけグループでは、短期間の分布調査だけでは明らかにできないタンポポの疑問を、少しでも解決したいと考えています。開花期間が短いので、1年の活動は4カ月ほどになるかもしれませんが、興味のある方の参加を引き続きお待ちしております！現在のメーリングリストを見直して、新たに連絡体制を整えたいと思います。メーリングリストに入れて欲しいというご希望の方は、上記アドレスまで連絡をください。こちらから改めて連絡をとらせていただきます。

【活動報告】

12月と1月は、特に活動はありませんでした。

【活動予定】

そろそろタンポポのシーズンはじまります。4月半ばに勉強会などを開催する予定です。予定が決まり次第、ニューズレターとメーリングリストでお知らせします。



(15) 琵琶湖の小さな生き物を観察する会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 5 名】

グループ代表アドレス: hashi-bck@biwahaku.jp

グループ担当職員: 大塚泰介

【活動報告】

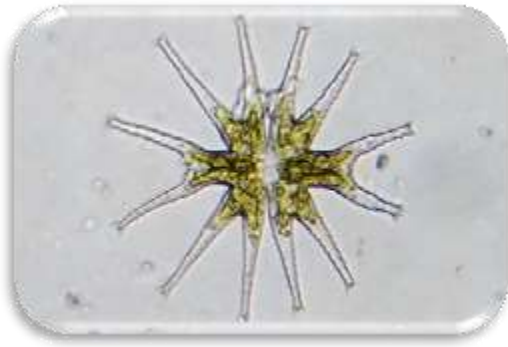
■ 1月13日(土)

参加者: 5名

今回は琵琶湖のプランクトンの観察と昨年山門湿原で採集したサンプルの観察を行いました。

午前には湖岸で採集を行い顕微鏡で琵琶湖のプランクトンの観察を行いました。また、プランクトン歴50年のメンバーの方に珪藻の標本を見せていただきいろいろな話を伺いました。

午後は去年の11月に山門湿原で採集したサンプルの観察を行いました。琵琶湖で見るプランクトンとは全く違うものばかりで新鮮でした。



琵琶湖の外来種
ミクラステリアス ハーディ



山門湿原で採集したミクラステリアスの1種

【活動予定】

以降の開催日については未定です。

琵琶湖の小さな生き物を観察する会では月に1回、観察会を行っています。見学・参加希望の方はグループ代表アドレスまでお問い合わせください。



(16) びわたん

【活動報告日の活動会員数(のべ) 90名】

グループ代表アドレス: hashi-biwatan@biwahaku.jp

グループ担当職員: 奥野知之, 小林偉真

12月のわくわく探検隊では、生活実験工房で実際に綿に触れながら糸つむぎや綿くりをすることができました。また、1月のわくわく探検隊では、お魚博士からタナゴについて教えていただいたり、お魚モビールを作ったりすることができました。

【活動報告】

■12月9日(土) 「綿にふれてみよう！」

参加者: 29名

- ・12月は綿を紡いで糸を作りました。
- ① から綿ができるまでの観察日記をしゅっちが発表
- ② 工房前の畑で残しておいた綿を収穫
- ③ 綿・繭・羊毛・化繊を顕微鏡で観察
- ④ 綿くり
- ⑤ 弓うち
- ⑥ スピンドル

盛り沢山の工程を体験して頂きました。全工程を体験した後、ゆっちによる糸車の実演、機織り探検隊の機織り実演をしました。今回は機織り探検隊の皆さんとのコラボプログラムでした。回数を重ねて、息ピッタリ☆内容も充実！今後も続けて行きたいです。

びわたん (いっし〜☆)

- ・「わたができるまで」をおきゃくさんの前で、読むときにさいしょはきんちょうしたけど、2回目はきんちょうしなくてたのしかったです。

びわたん (しゅっち)

- ・糸車で糸をつむぎました。むずかしかったけどお客さんの前でしっかりひろうことが出来たのでよかったです。

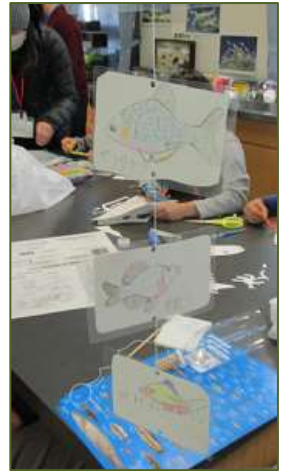
びわたん (ゆっち)



■1月13日(土) 「お魚モビールをつくろう！」

参加者：61名

今回は、1年3カ月ぶりの「お魚モビール作り」です。受付開始後すぐに定員に達し保護者・スタッフも合わせ61名と実習室が人でいっぱいになりました。主役となる魚は「タナゴ」です。お魚博士の金尾さんからタナゴの話を聞いた後で水族展示室に移動し、タナゴの観察とスケッチを行いました。タナゴの水槽は3カ所あるので分散することができ、他のお客様に迷惑をかけることなく皆さんが熱心にスケッチをしました。実習室に戻ってスケッチに着色仕上げした後でラミネート加工し3～4枚のタナゴ・カードを作り糸でつなげました。



次はペットボトルで「サケ」や「カジカ」を模した魚やバイカルアザラシのマスコットを制作し、タナゴ・カードと合体しモビールの完成です。時間の関係で一家族1セットのモビール作り限定しましたが、兄弟で参加すれば各々に作りたいのが子ども心。結局は時間オーバー

の続出でした。更に他のバージョンも自宅で作りたい希望が多く材料を持って帰る子どもが多く見られました。手伝ってくれた「滋賀の教師塾」のお兄さん、お姉さんも多くの子ども達と交わることができて貴重な体験をしていただきました。更に近代美術館サポーターさんにも強力な支援をいただき大助かりでした。

びわたん(しゅうさん)



【活動予定】

- 2月10日(土) 「昔の暮らしを体験しよう！」
- 3月10日(土) 「琵琶湖の湖底をのぞいてみよう！」



(17) ほねほねくらぶ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 15名】

グループ代表アドレス: hashi-hone-hone@biwahaku.jp

グループ担当職員: 松岡由子, 高橋啓一

【活動報告】

■11月26日(土)

参加者:4名

イタチの解剖、フナのクリーニング、タヌキの骨のクリーニング、キジの骨の整理作業を行いました。

■12月16日(日)

参加者:3名

この日は普段の活動とは少し違った活動内容となりました。現在行われている博物館のリニューアル、そのリニューアル後の展示で使用する、資料映像の動画の撮影のお手伝いをさせていただきました。

骨格標本の制作の様子を紹介する動画のために、実際の作業を行いながら、ポイントになるところを撮影していただきました。

もちろん作業を撮影してもらおう事などめったにないことなので大変緊張した状態で撮影に臨むこととなりました。



■12月24日(日)

参加者:3名

タヌキの骨を組み立てる作業を行いました。

今回行ったのは、バラバラな状態の骨を並べてみて、骨の正しい並びを確認したり、固定が必要な部位を固定したりといった作業、組み上げるための下準備といった作業になります。

普段からいろいろな骨に関する資料を集めておくと、いざ取り組もうとした時に資料が手元にあるので大変助かります。この資料は、何も書籍だけではかぎりませんが、普段の活動の時にとったメモや写真なども大事な資料とすることができます。

今までの活動を通じて蓄えられた資料は、歴代のメンバーさんからの大事な道しるべとして助けてもらいながら、そこに自分たちも少しでも新たなものを残していけたらと思うのです。

■1月7日(土)

参加者：3名

ハクビシンの解剖、タヌキの組立作業を行いました。

タヌキの組み立ては、前回の活動時に骨の並びを確認したものを仮組みをしてみて、ポーズや支えの仕組みなどを考え、全体の構造を作っていく作業になります。

出来栄を左右する工程になりますので、注意深く一つ一つ確認しながら進めていきます。

■1月13日(土)

参加者：2名

動画撮影の2回目。今回は骨の組み立ての様子がわかるような動画の撮影を行いました。

撮影隊の方達が工夫して撮影して下さいだったので、どんな映像の出来上がりになるのかとても楽しみです。

【活動予定】

■2月4日(日) 2月17日(土)

■3月の詳しい活動日は現在未定ですが、

月に2回程度、土曜日・日曜日に活動を予定しております。



(18) 緑のくすり箱

【活動報告日の活動会員数(のべ) 16名】

グループ代表アドレス: hashi-midori-k@biwahaku.jp

グループ担当職員: 大槻 達郎

【活動報告】

■12月10日(日) 10:00~ 薬草ピザ作りと柚子胡椒作り 場所: 琵琶湖博物館 実習室2 参加者: 10名

12月は毎年恒例となった薬草のピザ作りと、計画していた柚子胡椒作りを行いました。今年もメンバーがそれぞれ持参した具材を持ち寄り、ピザの生地をこねて実習室のガスオーブンで焼きました。具材は、ハーブや、野菜、果物など多々あり、今年も緑のくすり箱らしいピザができあがりました。また、前回の活動でくつきの森の森林公園で植物観察を行った時に採った、なつはげ(日本のブルーベリーと言われる)をジャムにしたものを持ってきてくれたメンバーもいました。

柚子胡椒作りは、今年初めての取り組みでした。通常、柚子胡椒は青ゆずと青唐辛子で作りますが、手に入り難いので完熟柚子と鷹の爪で作る柚子胡椒を作りました。ただ、本柚子でも、今年はスーパーや道の駅などでよい本柚子があまり売っておらず、花柚子をメンバーが分けてもらい、そちらで代用したため、材料の柚子、鷹の爪、塩の分量については、味見をしながらの製作になりました。

ピザ作りと並行して柚子胡椒を作ったため、少しバタバタしてしまいましたが、完熟柚子胡椒は、メンバーが各自持ち帰り、お鍋で頂いたりして美味しく食べて頂けたようです。



■1月13日(土) 10:00~ 七草蒸しパン作り 場所: 琵琶湖博物館 生活実験工房 参加者: 6名

連日の寒い日が続く中、今年も恒例の七草活動を行いました。

今回は生活実験工房での作業や、メンバーそれぞれが忙しいこともあり、手早く作れて七草の美味しさを感じられるように、蒸しパンを作りました。

七草に山陰の伝統野菜、津田かぶの蜂蜜漬けを混ぜて蒸しあげると、とても彩りのきれいな蒸しパンに仕上がりました。津田かぶは日野菜が原種で、江戸時代に参勤交代の際に、松江に持ち込まれ、現在は出雲地方で主にお漬物で食されるそうです。

(メンバーの感想)

- ・津田かぶの意外な組み合わせにとっても刺激を受けました。
 - ・紫、ピンクの色合いに食べるだけでなく、色でも楽しめ、七草を食す習慣が少し形を変えても、続くといいと思いました。
 - ・美味しく食べて、無病息災になるなんていいですね。
 - ・楽しく美味しかったです。
- など、みなさん七草の美味しさを再発見してもらえた活動になりました。



【活動予定】

■2月25日(日) 10:00～ 実習室2

- ・もぐさ作りとミツロウクリーム作り
- ・映画「ミツバチからのメッセージ」上映

■3月18日(日) 9:30～ 生活実験工房

- ・精油の蒸留体験
- ・総会



(19) 森人(もりひと)

【活動報告日の活動会員数(のべ) 21名】

グループ代表アドレス: hashi-morihito@biwahaku.jp

グループ担当職員: 林竜馬

【活動報告】

■11月18日(土) 13:30～14:30 JICA研修の中で森人活動の説明 場所: 生活実験工房、屋外展示の森

参加者: (会員) 2名 (博物館職員) 林、草加

内容: 生活実験工房でポスターを使用し森人活動の説明を行った後、屋外に出て縄文弥生の森と太古の森の概要説明と構成樹木の説明を行った。

■12月9日(土) 13:30～16:00 樹冠トレイルに設置する案内板の原稿案検討 場所: 研究交流室

参加者: (会員) 5名 (博物館職員) 林、草加

内容: 分担した各テーマ (シイ・カシ類、クス・タブ類、鳥類、昆虫類、哺乳動物および落葉樹) の進捗状況の確認と検討を行った。記載内容については写真の変更、追加と説明文の簡略化 (漢字にルビを振るため) をすることになった。また予算の関係でどうなるかわからないが森人でもう1枚「森の低木」の説明板を準備しておくことになった。

■12月23日(土) 13:30～16:00 クズ、キカラスウリの除去作業 場所: 太古の森 (駐車場よりの場所)

参加者: (会員) 7名 (博物館職員) 林、大槻

内容: メタセコイア、スイショウ、サザンカ、メギ、シナサワグルミに巻き付いたクズとキカラスウリの除去作業を行った。今回はクズやキカラスウリに覆われて弱った樹木の救済と美観の改善をすることを目的に作業を行った。クズの伐採は先ずその主幹を切り、次に地際から出ている何本もの長いランナーを手繰って除去した。本日の最大の物はメタセコイアに巻き付いた直径5cm、4年ものであった。根茎の除去や薬剤処理をしなかったため来年またランナーが出てくるが必要に応じ除去作業を行うことにする。ちなみに会員のYさんはクズのツルを使って写真のようなリースを作るとのこと。



Yさんの作品



作業前



作業の様子



作業後

■1月13日(土) 13:30~15:30

樹冠トレイルに設置する案内板の原稿案検討

場所：生活実験工房

参加者：(会員)7名(博物館職員)林

内容：森の観察会と樹木説明版の保守などを予定していたが寒風が吹き荒ぶ天候のため屋内での活動に変更した。これまでの検討結果をもとに作成した案内板(A3版)を見ながら検討を行った。だいぶ様になってきたがより見やすくするために写真の変更、追加、イラストの追加、説明文の簡略化などを行うことにした。

【活動予定】

■1月27日(土) 13:30~16:00

内容：森の観察会&樹木説明版の保守など

場所：生活実験工房

■2月10日(土) 13:30~16:00

内容：ヨシの調査

場所：西の湖B&G海洋センター

■2月24日(土) 11:00~15:00

内容：観察会

場所：栗東自然観察の森

※ 森が好きの人、植物や昆虫など生き物が好きの人、専門知識は不要です。はしかけ“森人”に参加しませんか

※ 参加を希望される方は 森人(もりひと) morihito@biwahaku.jp に連絡ください。



(20) ちこあそ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 8名】

グループ代表アドレス: hashi-chikoaso@biwahaku.jp

グループ担当職員: 澤邊久美子

12月と1月のちこあその活動を報告します！

◆12月のちこあそは、なんと11組(子ども15名、大人11名)、スタッフもいれると30名以上のにぎやかでした。12月も末だというのに、とても暖かい日で、外での遊びも工房での活動もとてもリラックスして活動できました。工房では、お母さんと子どもたちが畑で収穫し、乾燥した黒豆を棒でたたいて、豆を鞘から外して、一つひとつ豆を選別する作業を行いました。地道な作業ですが、お母さんも黙々と、子どもたちも小さな豆を集めるのが楽しい様子で、「昔ながらの手作業で豆を選別するということは、こういうことなんやなあ」と実感していました。その黒豆は、早速バンダナおじさんが同様に田んぼで収穫したお米と一緒に炊いてくださりました。ほんのり赤い色がついた黒豆の赤飯です。美味しかったですー！

また、屋外ではからっと晴れた空の下、落ち葉遊びを満喫しました。落ち葉を空へ投げ上げて、ヒラヒラ落ちて来る葉っぱを上手につかむ遊び、落ち葉を集めてプールのようにしてその中へ入る遊び、トランポリンのようにたくさんの落ち葉の上でピョンピョン跳ねる遊びなど、森の落ち葉でたっぷり遊びました。

◆1月のちこあそは、雨、雨、雨。3日ほど前には烏丸半島でもたくさんの雪が降り、アトリウム前にも氷が張る寒さだったのですが、全ての雪と氷は溶け、朝からザーザー振りでした。それでも6組(子ども7名、大人6名)が来館され、スタッフと共にカップを着て、冬と雨の自然を楽しみました。

雨でも人気なのは、ガチャコンポンプ。2歳、3歳ごろから子どもたちは、大好きな水がなぜガチャガチャすると出て来るのかとても不思議で、かつガチャガチャとハンドルを動かしたい欲求が、ガチャコンポンプに向かいます。当然、ハンドルの取り合いで小さなケンカがあったり、なかなか水が出て来ずイライラしたり、出てきた水がかかったりと、ハラハラの場面も多いですが、お母さんたちもゆっくり見守りつつ、楽しい学びの場面となっています。

今回も、バンダナおじさんの美味しい畑の幸が出てきて、お母さんたちの夕食のアイデアにも大貢献でした。毎回は幸は出てきませんよと伝えていますが、バンダナおじさんのお陰で、ちこあそファンが増えています。

【先月もお知らせしましたが、嬉しいので再度お知らせします】

ちこあその活動では、幼児の自然への関わりの研究もしており、この度共同研究者の神戸大学4年生上枝千明さんが、日本造園学会関西支部賞を受賞されました。何時間にも渡るちこあそ活動中の子どもたちや保護者の方の声を起して、テキストマイニングの手法で、自然との関わり、博物館の展示物との関わり、人との関わりとの関係性を明らかにしていく研究です。少しずつちこあその活動が、世の中に認められ、博物館の学びが広がっていくことを実感しています。

※ WEBで、活動の様子や次回のチラシを掲載しています。

<http://blog.goo.ne.jp/eco-macha> をご覧ください。

【活動報告】

	実施日	タイトル	内容
12月	12月20日(水) 10:00-14:00	ちこあそ12月	ルーペでの自然観察、森の探検、工房の食体験など 参加者：子ども15名、保護者11名、学生1名、メンバー4名
1月	1月17日(水) 10:00-14:00	ちこあそ1月	ルーペでの自然観察、森の探検、工房の食体験など 参加者：子ども7名、保護者6名、学生1名、メンバー4名

【活動予定】

活動内容	実施日	タイトル	内容
2月	2月14日(水) 10:00-14:00	ちこあそ2月	※いつもは第3水曜日ですが、2月は第2水曜日に行います ルーペでの自然観察、森の探検、工房の食体験など やさしい自然遊びを子どもや保護者の方とゆっくり、ボチボチします。
3月	3月21日(水祝) 10:00-14:00	ちこあそ3月	ルーペでの自然観察、森の探検、工房の食体験など やさしい自然遊びを子どもや保護者の方とゆっくり、ボチボチします。

※ 新しいメンバーも飛び入りも大募集中です。一緒に子ども達と遊びましょう！

【記録写真】

12月のちこあそ



落ち葉の上で寝転びました。



キクイモの茎を持って、「お空までとどけー！」

1月のちこあそ

2歳の子どもが、綿繰り機を上手に使いこなしています。びっくり。



(21) 近江 巡礼の歴史勉強会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 6名】

グループ代表アドレス： hashi-junrei-rekishi@biwahaku.jp

グループ担当職員：橋本道範、渡部圭一

【活動報告】

■12月11日(月)

場所：甲賀市甲南町

参加者：2名

甲南町福野家墓所の訪問調査を実施。

大正6年9月(1917年)に建立された「巡拝記念塔」(秩父・坂東)(西国・四国)を発見した。発願者の信仰の深さが偲ばれる石碑である。



■12月20日（水）

場所：甲賀市甲南町

参加者：2名

甲南町檜尾寺文珠院住職と面談が実現し、本堂で大きな発見がありました。甲賀の古刹を訪問、趣旨説明と今までの調査結果を報告。そして、本堂の中へ、すると厨子に入った大師像を発見。厨子の裏には寄付者のお名前が書かれていました。これは、甲賀准四国設置由来に書かれているお名前と合致。裏底に発起者の名前も明記されているのを発見。設置由来には大師像を京阪で铸造、厨子を名古屋市に注文と書かれています。今回の発見で、当初の厨子と大師像が明確になりました。寺院によっては大きさの違う厨子や木製の大師像もあり少々混乱していましたが、調査対象がはっきりしてきました。

■12月25日（月）

場所：甲賀市甲南町

参加者：2名

檜尾寺文珠院の調査の後、稗谷安楽寺を再々訪して住職と面談。弘法大師像と厨子を再確認させていただきました。厨子には文珠院と同様に寄付者のお名前が書かれていて甲賀准四国設置由来に書かれているお名前と合致しました。



★ 文珠院の弘法大師像（金属製）、厨子の裏底に発起者の名前が書かれています。



★ 厨子の裏側の施主名と甲賀准四国設置由来の寄付者名が合致しています。



★ 文珠院に保管されている朱印箱（三つの巡礼札所になっている）



★ 安楽寺も厨子の裏側の施主名と甲賀准四国設置由来の寄付者名が合致しています。

今回の調査で明治45年の設立当初に作られた弘法大師像と厨子の形が明確になりました。また、厨子の形が五輪塔を表現したものであることも解りました。

【活動予定】

- ・今年度内に甲賀市三大寺の飯道寺（飯道山登山も含めて）今郷浄土寺訪問を計画する
- ・寺院訪問を実施して大師像、厨子、掛額を確認する。

※この活動に興味のある方は、上記メールアドレスにてご連絡ください。（福野憲二）



(22) 虫架け

【活動報告日の活動会員数(のべ) 8名】

グループ代表アドレス:hashi-mushikake@biwahaku.jp

グループ担当職員:八尋克郎

【活動報告】

■12月3日(土) 10:00~15:30

野外調査 東近江市にて

参加者:8名

蝶の卵探し&採集 および、越冬中の昆虫探し。

蝶の卵は大きさ1ミリ程度で、探すのはとても大変でしたが、皆で協力して見つけることができました。越冬中のテントウムシなども観察できました。



【活動予定】

今後、1か月に1回程度の野外調査、2か月に1回程度の室内勉強会を予定しております。

1月下旬の活動予定:鳥丸半島の越冬昆虫調査、2018年の活動の協議など。

ご興味をお持ちの方は、グループ代表アドレスまでご連絡ください。

(文責:梶田)

4. 生活実験工房からのお知らせ

※寒い冬から、少しずつ春の気配が感じられる頃になりました。本年度の生活実験工房の行事も残すところ2回となりましたが、工房内にて作業を行います。時間を見つけて体験活動へのご参加をよろしく申し上げます。

担当職員:下松 孝秀

【活動予定】

■2月11日(日) わら細工

■3月10日(土) 一年間のふりかえり

各回とも 開催時間 10:00~12:00

場 所 : 全日程とも生活実験工房

※ 一般参加者の受付は、9:30からです。 わら細工の作業時には、「マスク」をご持参ください。

5. その他の事項

(1) メールアドレスとホームページアドレスの変更について

びわ博の情報システム変更にもなつて、メールアドレスとホームページのURLが変更になりました。新しいメールアドレスは「***@biwahaku.jp」、ホームページは「<http://www.biwahaku.jp/>」です。なにか不備がありましたら、事務局までお問い合わせください。

(2) はしかけグループの活動に初めて参加する場合

ニューズレター発行後、活動日・活動場所が変更になる場合があります。グループの活動に初めて参加する時は、事前に各はしかけグループの担当者に確認をお願いします。メールの場合は、グループ代表アドレス（各グループの報告欄に掲載）にご連絡ください。

(3) 名札（会員証）の写真について

名札（会員証）の写真を更新されたい方は、はしかけ制度担当者 hashi-adm@biwahaku.jp まで送って下さい。ただし、必ず本人確認ができるものに限ります。

(4) はしかけ会員証の携帯のお願い

はしかけ活動で来館する場合は、会員証を必ず持参してください。会員証を携帯せずに活動することは、原則的にできません。

(5) はしかけ活動中に事故が起こったら

はしかけ会員は、ボランティア保険に加入する必要があります。加入時に、ボランティア保険加入カードが各自に配布されますので、活動中に事故などが発生した場合には、加入者カードに書いてある連絡先（社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会 TEL: 077-567-3920 FAX: 077-567-3923）へ、速やかに連絡してください（各人で連絡）。

なお、手続きには、グループ担当者（学芸員）の活動証明が必要ですから連絡してください。

詳しくは、最新年度の「ボランティア保険」パンフレットをご覧ください。「ボランティア保険」のパンフレットは、はしかけ事務局（博物館事務学芸室）にも置いています。

